

国際交流基金海外巡回展「東京ビフォーアフター」開会式  
山田大使挨拶（2019年5月8日（水））20:00～

皆様、こんばんは。

国際交流基金海外巡回展「東京ビフォーアフター」のブラジルでの開催にあたり、主催者の1人として大変嬉しく思います。会場を提供いただいた Caixa Cultural のジュリオ・シエハ副頭取、関係者の皆様、本日お集まりの皆様、そして太鼓の演奏で盛り上げていただいた「喜勝楽」の皆様に深く感謝申し上げます。

本展示会は当地ブラジリアで明日から6月9日まで実施され、その後、クリチバ、リオ、マナウス、レシフェ、サンパウロを回ります。テーマは1930年代及び1940年代の東京と2010年以降の東京です。各時代の日本人写真家が様々な角度からスポットライトを当てて現在と過去の東京の街や人々の暮らしの様子を紹介します。全81点の作品を通して、東京の現在と過去のコントラストや発展の様子を感じていただき、この世界的にもユニークな都市の多様な魅力を知っていただければと思います。また、展示会が実施される各都市の皆様の皆様のご友人やご家族にもお知らせいただければ幸いです。

その東京では、明年2020年には、東京がリオからオリンピック・パラリンピックを引き継ぎます。ロボットやヴァーチャルリアリティ等の世界最高レベルの日本のテクノロジーを駆使した「史上最もイノベーティブな大会」にするとのビジョンを打ち出し、関係者が一丸となって準備を進めているところです。この機会に多くのブラジル人の皆さんに東京を訪れて頂きたいと思っております。

本日お越しの皆様には、この後しばしの間軽食を召し上がりながら写真を鑑賞して頂きます。是非楽しんでいただければと思います。

「リオから東京へ」というこの歴史的な機会を活かして、日伯の一層の友好親善が進むことを祈念致しまして、私の挨拶といたします。有り難うございました。